

## 高知県環境研究センター（大気担当）

今回は、高知県環境研究センターの大気担当を紹介いたします。昭和48年に高知市丸の内にある衛生研究所公害部から同一庁舎内で高知県公害防止センターとして発足、昭和61年に高知市棧橋通の現庁舎に単独移転し、平成9年に現在の名称に変更されました。

所長、次長を含めて研究職員12名の小規模な組織で、企画、大気、水質担当チーム制としており、大気担当職員は4名ですが、業務内容によって企画や水質を担当する職員も相互に協力する体制となっています。

### ○主な業務

大気担当者は、大気環境常時監視、有害大気汚染物質調査、国設栲原測定所と香北測定所における酸性雨調査、高知龍馬空港周辺での航空機騒音調査、工場・事業場の立入調査に加え、騒音、振動、悪臭にかかわる市町村等への技術支援も担っています。

南国高知と言われますが、栲原測定所は四国山地の積雪地帯にあり、冬場は四輪駆動に冬用タイヤ、場合によってはチェーン装着が必要な場合もあります。

### ○調査研究等

業務のなかで生じた課題や新たな環境問題に対しては、各職員が分担して、調査研究に取り組んでいます。微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)の成分分析については、機材等の不足のため、民間試験機関に委託していますが、将来、所内での対応も考慮し、アンダーサンプラーによる粒径別試料の成分分析を研究課題として取り組んでいます。

### ○高知県の大気環境について

環境に恵まれた本県では、大気環境常時監視は、発生源が比較的集中している県内中央部10局（平成10年中核市移行に伴い、内5局を高知市に移管）と移動測定車で対応していました。

昨今の微小粒子状物質の問題で県民からの問合せも多くなり、平成26年に県東部、西部に新局舎を設置し、今後、各局の測定項目も順次整備を図ることとしています。

高知県では南海トラフ地震への対応が進められています。当センターは地名のとおり、棧橋に隣接し、発災後は長期浸水が予想されます。衛生研究所の庁舎は耐震補強が困難であり、東日本大震災において、耐震構造の施設では分析機器の脱落なども見られたことから、免震構造での建て替えが計画されています。

両機関とも、研究職員の削減、中堅職員や分析機器の不足と言った共通の課題を抱えており、新庁舎に統合移転の予定も示されています。その際に、必要な機材の整備を図り、微小粒子状物質の成分分析など現在の課題解決にも取り組んでいきたいと考えています。



高知県環境研究センター



国設栲原酸性雨測定所



香北酸性雨測定所



大気環境移動測定車



航空機騒音測定



環境学習（松葉の観察）



工場排ガス調査